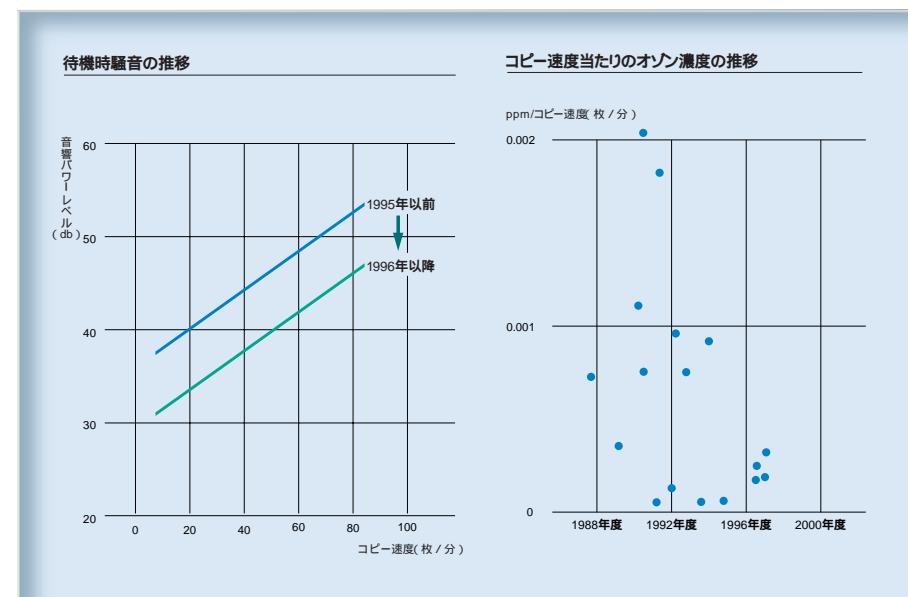
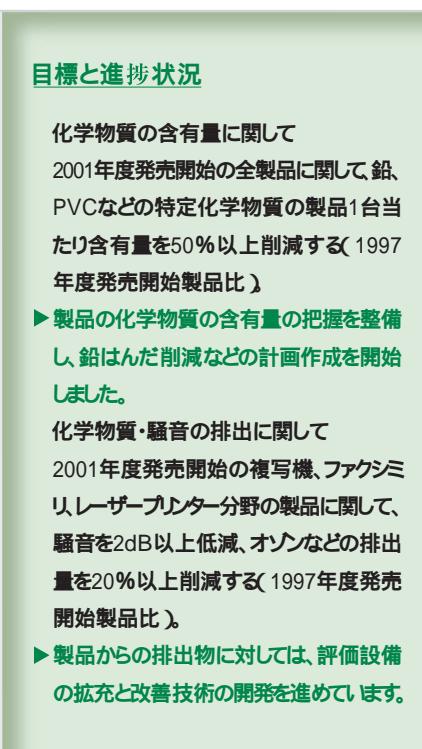


## 汚染予防(製品)



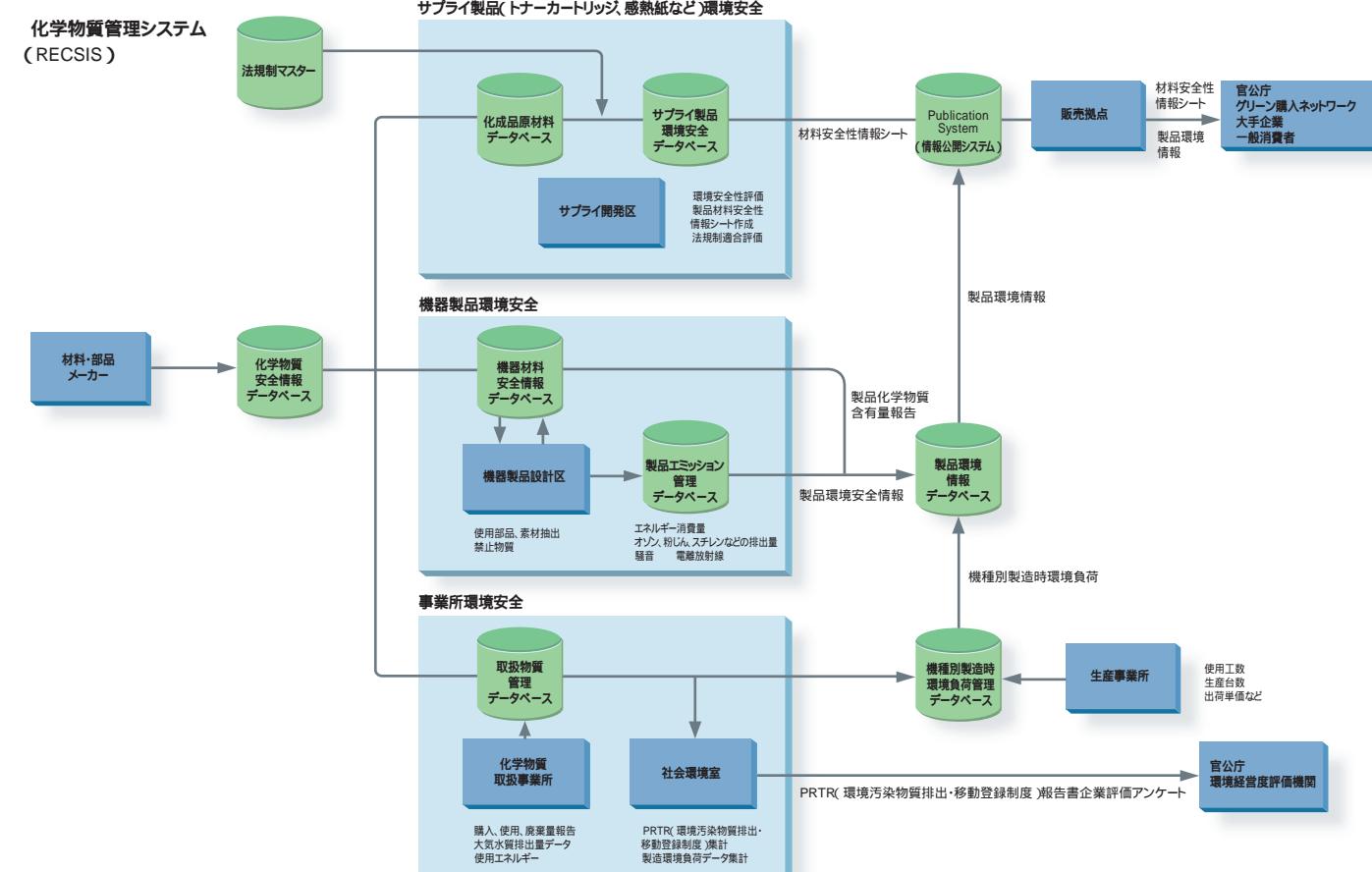
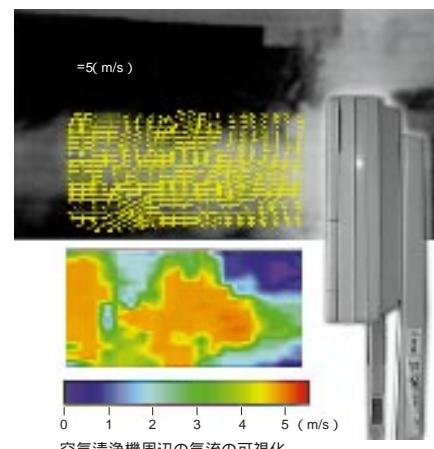
### 製品の汚染予防の考え方

ドイツのブルーエンジェルマーク(BAM)や北欧のノルディックスワンマークなどの環境ラベルは、製品そのものに含まれる、または製品から発生する化学物質について高い水準を要求しています。リコーグループは、環境に有害な化学物質の使用・排出を最小限にすることを目標に、これら環境ラベルよりも厳しい製品環境安全基準を設定し、この基準をクリアする製品づくりを行っています。また化学物質管理システム(RECSIS)によって、製品に含まれる化学物質および製造工程での化学物質のフローを管理しているほか、お客様やOEM先からの化学物質使用状況のお問い合わせに対しても迅速に情報提供が行える体制づくりも進めています。

\*RECSIS: Ricoh Environmental and Chemical Safety Information System

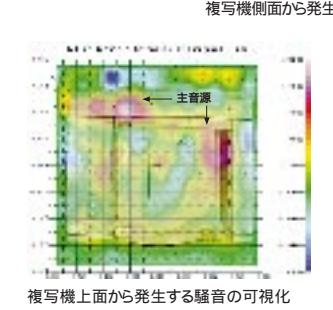
### 気流の可視化技術

リコーでは、1979年に製品騒音に関する基準を定めて以来、基準のレベルアップと静音化技術の向上に取り組んできました。なかでも待機時の騒音の大きな要因となるファンの削減は重要な課題でした。ファンの削減は、機内の温度上昇に影響し、またオゾンや粉じんを抑制するためのフィルターにも影響を与えます。排熱、低騒音化、オゾンなどの排出抑制という要求に対し、リコーは製品内外部の気流を可視化する技術を開発。この技術を活用することにより、複写機などOA機器の内外部で最適な気流が生まれるように部品をレイアウトし、効果的に気流を利用しています。



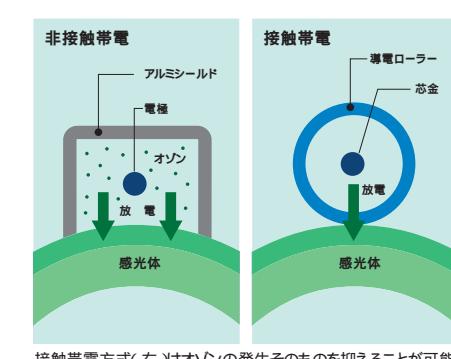
### 低騒音化技術

リコー中央研究所が開発した「音の可視化システム」は、製品のどの部分からどれくらいの騒音が発生しているのかを測定しスピーディな設計変更などを可能にしました。また、一定時間使用していないと自動的にファンやエンジン部が停止し、コントローラー部だけに電力を供給してデータを待ち受けるように複写機やプリンターの機能を設定することで、低騒音化と省エネルギー化を実現しています。



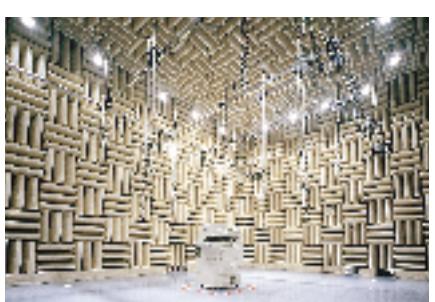
### オゾンレス設計

従来の複写機やプリンターは、感光体ドラムに帯電させるときに、感光体と電極の間で電荷と酸素が反応してオゾンが発生していました。そのため、オゾンフィルターで環境に負荷のあるオゾンを除去する必要がありました。転写ベルト方式や、ゴム製の導電ローラーに感光体ドラムを密着させて帯電させる方式などの「接触帯電方式」は、電荷が酸素に触れることなく帯電できるため、オゾンの発生そのものを抑えることができます。



### 騒音試験場の国際認定取得

現在、企業や製品の環境負荷情報の開示はもちろん、データの信頼性、試験場の信頼性についても問われはじめています。リコーの騒音試験場は、1998年9月、ISO規格に基づく認定を取得しました。この認定は、試験場の技術的能力と試験結果報告の信頼性に関するもので、米国のNIST(National Institute of Standards and Technology)によって実施されました。騒音試験に関してNISTによる認定を取得したのは、国内ではリコーが初めてです。



リコー大森事業所の騒音試験場